

マザーゾーンのイメージ(案)

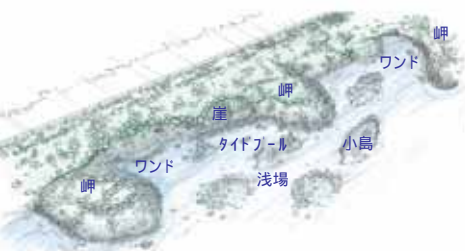
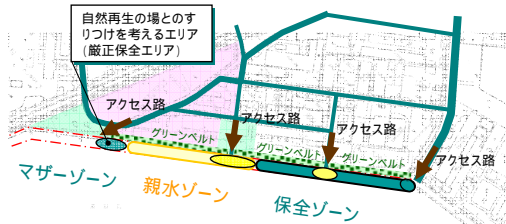
ゾーンのコンセプト

厳正保全をテーマとして整備する。

人の出入りは許容しない。

護岸上にアクセスの工夫は施さない。

A.P.+3.0mまでの乱積み部には大きな変化を持たせ、生物の生息空間とする。
(親水部としない)
(ワンド、木杭、転石等による環境向上を図る)。



マザーゾーンのイメージ(案)
= 人が立ち入れない空間 =



マハゼ(岩陰)



トサカギボ



メジナの幼魚



アラムシロガイとアサリ



タマキビガイ(フジツボの中に)

6. バリエーション検討の課題点

(1) 保全ゾーン

ルールづくりと周知徹底を!
安全対策を工夫する!



保全ゾーンとしての周知・徹底方策の検討が必要。

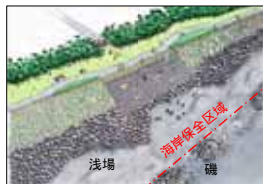


階段部の強度確保が必要。
小テラス部の安全対策の検討が必要



木杭等の維持管理方策について検討が必要。

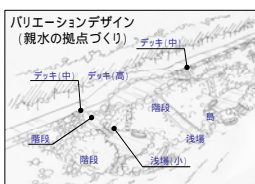
(2) 利用ゾーン



海岸保全区域外となる箇所については、規模・位置の調整が必要。

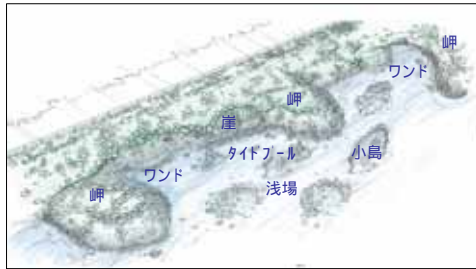


ワンド状にセットバックするので、防護に必要な護岸断面の確保の方策の検討が必要。



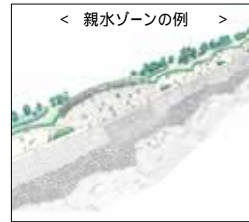
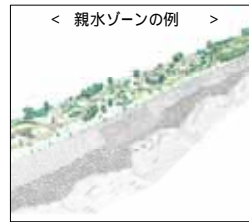
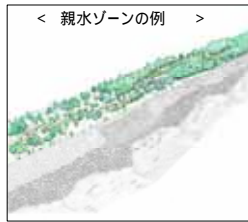
同上
防護に必要な護岸断面の確保の方策の検討が必要。

(3) マザーゾーン



海岸事業での整備範囲について検討が必要。
維持管理の方法について検討が必要
(メンテナンスフリー?)
構造物の強度を確保する必要がある。
防護に必要な護岸断面の確保の方策の検討が必要。

(4) 遊歩道



利用ゾーンでは背後地計画と調整が必要。
防犯灯の設置や配置について調整が必要。
事業区分について明確にする必要がある。